

久万町の将来

## V 久万町の将来 目 次

1	町づくり座談会……………久万町の将来を語る……………	427
2	久万町の将来の発展のために……………久万町長 河野 修……………	437
3	町づくり入選標語……………	442
4	町づくり入選論文……………	443
	付 表 久万町年表……………	454

## 1. 町づくり座談会 (久万町の将来を語る)

出席者	久万町長	河野修
	久万町議会議長	上沖健市
	久万町商工会長	篠崎隆美
	久万農業協同組合常務理事	日野直親
	久万町森林組合専務理事	関井義弘
	久万町教育委員会委員長	渡部綱賀
	久万町教育委員会教育長	小椋秀雄
	久万町役場産業課長	渡部鬼子雄
		(順不同)
司会	久万町役場企画課長	日野嘉彦
記録	久万町教育委員会社会教育主事	玉水寿清
写真	久万町教育委員会公民館主事	正岡健司

**司会** 本日は、暑い時期にお忙しい人ばかりお集りいただき誠に有難うございました。ご案内申上げましたように、久万町は昭和34年に旧久万、川瀬、父二峰の三か町村が合併を致しまして、当時15,000人の町民が、限りない幸せと繁栄を願って新しい町づくりに取り組んだわけですが、今年でちょうど20年を迎え、合併20年の意義ある行事を計画し、実施いたしております。

今日は、その記念行事の一環として、町内の行政機関の責任者、及び、経済団体の責任者にお集まりいただきました。限られた時間ではありますが、それぞれのお立場で、合併当時からきょうまでの足跡をふり返り、更に、将来の町づくりについてのご意見をいただきたいわけです。なお、この場で話し合われたことは、「久万町20年誌」の中に一部収録したいと考えておりますので、ご承知いただきますようお願い致します。

**合併後の大きな動きを掲げてみますと、**

**昭和34年3月31日**、合併促進法の適用を受けて、旧久万、川瀬、父二峰、美川村の一部横谷が合併し、新久万町が誕生。その年、台風6号が襲来、明神地区に大きな被害をもたらす。

**昭和35年**、新農村建設事業が始まる。

**昭和36年**、農業基本法が制定される。商工会が発足する。峠御堂トンネルの起工式が行われ

## V 町づくり座談会

る。久万町建設の基本計画が作定される。

**昭和37年**，農業構造改善事業の指定を受ける。現役場庁舎の起工式。唐子水源地の起工式が行われる。

**昭和38年**，現庁舎が完成し，新庁舎へ移転。執務を始める。

昭和38年12月から昭和39年4月まで，久万地方は大豪雪に見舞われる。

**昭和39年**，唐子水源地，及び，久万簡易水道ができあがる。久万大橋完成。東京オリンピック大会が開催せられ，国道33号線を聖火が走る。久万町出身の片山美佐子さんオリンピック大会に出場する。

**昭和40年**，明神地区農業構造改善事業に着手，この年の4月1日，久万町内5農協が合併する。林業構造改善事業にも着手する。

**昭和41年**，国道33号線入野～野尻間バイパスが開通する。久万小学校本館の完成。町内3つの森林組合が合併して久万町森林組合となる。畑野川ナベラ地区圃場整備事業が完了する。

**昭和42年**，テレビ中継所が完成する。国道33号線が改修工事を終り全線開通する。

**昭和43年**，合併10周年を迎え，盛大に記念行事を行う。体力づくりの町を宣言する。

**昭和44年**，過疎対策に着手する。久万山木材市場が開設される。

**昭和45年**，国の山村対策事業として，川瀬，父二峰が山村地区指定を受け，計画に着手する。

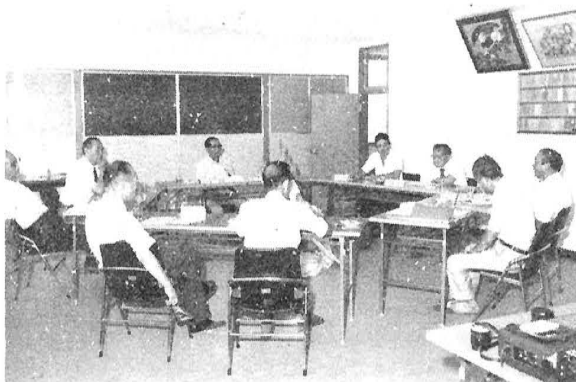
**昭和46年**，峠御堂トンネルが開通する。

**昭和47年**，自然休養村事業の指定を受ける。コミュニティセンター起工式が行われる。

**昭和48年**，国民宿舎「古岩屋荘」起工式が行われる。コミュニティセンターが落成し，「久万町民館」としてスタートする。久万町振興計画を策定する。

**昭和49年**，都市計画の指定を受け，新しい町づくりに着手する。

**昭和50年**，農村総合整備モデル事業の指定を受け，事業に着手する。河野新町



座談会 「久万町の将来を語る」

長が誕生する。「久万町体力づくり推進協議会」が体力づくり日本一となり，内閣総理大臣表彰を受ける。久万町民の目標に「町民憲章」を制定する。

**昭和51年**，広域消防署の先がけとして，久万町で救急業務を開始する。畑野川，直瀬，父二峰に夜間照明施設を設置する。久万町体育協会を結成する。久万小学校体育館が落成する。

**昭和52年**，農家高齢者創作館が完成する。久万幼稚園々舎が落成する。文化協会できる。

**昭和53年**，広域消防署がスタートする。地域農政整備事業に着手。新農業構造改善事業の指

定を受ける。合併20周年を迎えて各種記念行事を実施しているところである。

**司会** それでは合併の頃の町づくりについては-----



**河野 町長**

**河野** 私は町村合併以来何らかの形で町政に参加させてもらったが、昭和34年頃は農家の二、三男対策をどうするかという問題が真剣に論議され、色々手が打たれていた。今後後継者対策には取り組まねばならない。合併当初は、地域間格差の是正に重点を置いていた。また、地域の人間関係に関心を持ち、旧3か町村の意識づくりに努めたものである。農業の面では、自立農家の育成が行われ、米作を奨励していた。

**篠崎** そうですなあ、合併して早く一体化をということを町長さんと共に考えてきた。20年がたってみると、旧久万、川瀬、父二峰じゃというのがおかしいと思うようになった。

**関井** 合併頃は、まだ若くて十分なことがわからなかったが、昭和38年に議員に出してもらった。初めて議会に出てみて、地区的な感情が出ていたような気がした。

**日野** 私は行政の立場ではないが、地域的な感情があったように思う。農協は合併当時別々にやっていたので、感情的なものはなかったように思いましたが-----

**上沖** その当時の記憶もうすくなかったが、旧町村から合併条件が大分出されており、それを解決することによって、合併後の条件整備ができたのもである。

**司会** 合併後の条件整備として、もろもろのことが掲げられたが、自然立地条件はいかんともし難く、大変苦勞なされたことと思います。そこで、産業、教育、福祉などのあらゆる面で、へき地をつくらぬよう政治的配慮をせられたと思うのですが、その点について-----



**小 椋 教 育 長**

一本にしばって努力してきた。

**小 椋** 合併した年に久万中学校へ来た。それ以後の20年間の教育で前半は、子どもの学力を高めていくために費やし、全部の先生が努力してきた。その理由は二つある。一つは、久万は官公庁が多いから学力が低くて家族や子どもをつれて来たがらないのでは困る。二つは、科学技術の進歩に遅れない人間をつくるために、学力向上を中心にしてやってほしいという要請があった。文部省でも学力テストを始めたので、久万中学校も学力では道後、御幸中学校を競争相手に選び、得点を交換しあって競ったものだ。そしてそのレベルまで、更に、それ以上に引き上げようという合言葉のもとに、学力

後半は、社会教育に力を注いだ。その心構えとしては、政治、経済、教育がそれぞれの立場を守りつづけ、しかも一体にならないといけぬという考え方に立っていた。その意味で、総

## V 町づくり座談会

合社会教育という立場に立って、町長さんを中心にして諸活動を進めてきた。総合社会教育は、最初は体力づくりと社会道徳の高揚を中心に進めてきた。その場合、大きな障害となったのは、自治意識がうすいということであった。これからの課題は、横の連絡を密にして、コミュニティづくりと、自治意識を高めることに努力する必要があるということである。そのために社会教育が必要である。

**渡部 綱** 合併当初は、学校の予算が半減した。合併して良い面もあったが、学校予算では減少して悪い面があったと思う。今では学校間のバランスがとれてきたように思う。修学旅行も、最近では児童生徒が少なくなり、町内の学校が一緒に行くようになったが、よかったと思う。

**渡部 鬼** 昭和37年4月に、産業課の中で構造政策の計画を担当することになったのですが、経済団体が旧町村団体では仕事にならないということで、農協、森林組合の合併の問題が持ち上がりました。このことは、久万の新しい産業を生み出すための基礎条件になるということで、



**渡部 鬼 産業課長**

私どもが合併事務局を担当し、県、県森連、中央会のご指導も受けて、強引な構えで農協、森林の合併をおし進めました。ご承知のように農協には田中執さん、土居寛さん、井部栄治さんがおられ、森林組合には山本浅太郎さんがおられ、町、県のいうことには驚かれませんでした。ともかく、町議会、町理事者がかなりバックアップして、こわれてはつくり、こわれてはつくりで、事業が始まるまでに行政指導型で合併を推し進めました。そんななかで、損をしてはいけないとかいうやりとりもありましたが、合併したことがマイナスではなかったと思います。構造改善の仕事の中では、農林業の基本問題の大きな動きと小さな動きを近よらせようとするのが、社会教育の学習の中で認識されていました。それが町のやり方を支えてくれたともいえます。

構造改善の仕事には、首切り論でマスコミや革新団体から抵抗がありましたが、明神の場合は田中執さんの人格でおしきった型でした。社会教育が世論を形成して、町のプラスになったよい例だといえるようです。



**篠崎 商工会長**

**司会** この当時、合併がいたる所で進められていましたが、--- 久万町は比較的遅かったと思います。20年をふりかえて町づくりは順調であったでしょうか。

**篠崎** 合併当時から反省せないかんよと思っていたことがある。先ほど町長さんもいわれた通り、当時としてはいかに人減らしをするかということであったが、こういう考え方に問題があったように思う。高度経済成長の波が田舎へ押し寄せてきても、田舎に職があつて都会へ出るのならよいが、そうでなかったからいけないのである。現在では、出た人

を引っぱってこないといけないことになった。その当時、何とかして地元へ留めておくようにしたらよかった。経済中心でなく、人間中心の郷土づくりに気づいておたらよかったと思う。

**司会** いろいろ話し合われた中で、人口の減少問題がありましたが、これは久万町が見通しを違えたのではなく、周囲の経済の流れによるもので止むを得なかったことといえます。財政の面でも、大きく変化しましたが、その点についていかがでしょうか。-----



上 沖 議 長

**上沖** 人口が大幅に減ったのは、国の高度経済成長政策によるものである。そのために町民が移動させられたと、私はそのように感じている。

町民は減ったけれども、町づくりは十分できていると思う。山林もほとんどが人口林となっている。その意味では国の政策の見返りがあったといえる。国の財源を、久万町の農林業を振興させるために大いに活用しなければならない。

**司会** 都市からみると所得は低いけれど、ある意味ではよく成長したものだと思います。これは、住民パワーがいい意味で町づくりによく寄与したからだといえましょう。-----

**日野** 先ほどから話されておるとおり、昭和34年までは食糧を確保することが主眼であったと思うが、その後はいかにして農村の所得をあげていくかということに移ってきた。そのためには、いかにして労働生産性をあげるか、土地生産性をあげるかということが課題になった。

そこで、規模拡大をしなければならない。その規模拡大をはかるためには、基盤整備が必要であるということになり、その結果、人を減らす必要が生じてきたわけである。



日野農協常務

基盤整備事業は成功であったと思っている。整備した土地は今のところ水田であるが、食糧が余る現在、水田を水田にのみ利用するのは問題であり、高冷地の特色を生かして他の特産物を生産するための利用が大いに研究されなければならない。しかし、この事業は現在ではよかったといえる。

現在、ここの土地にあるものが特産であり、それを久万の特産として伸ばすことが大事だと思う。

**司会** 合併後の評価については、ご意見をいただいた通りであり、ご発言の中で出された課題は今後の問題として考えることにして、これからの町づくりの方向を考えてみたいと思います。町長さんに町づくりの将来構想を述べていただきます。

**河野** 町づくりについて概論的なことを述べるから、これからの話し合いの材料にしてほしい。先ほどから話し合われたように、合併後20年の成果は認められると思う。1、2点計画と相違したこともあるにはあったが、結論としては一応の成果は上がったとみてもよい。昭和48年に立てた久万町振興計画の中の、1. 働きがいのある町づくり、2. 住みよい町づくり、3.

## V 町づくり座談会

香り高い文化の町づくり、の3つの方向は現在も将来も変わることはないと思っている。

久万町の場合、いささか生産基盤は他の地域と比べて劣っているように思われるが、それを補う条件がいくつかあり、よい地域であると思う。町づくりの基本は、いつも言っているように、自然条件、生活条件、生産条件、こういったものを有機的に結びつけて開発することにある。これはいつの時代にも言えることである。自然条件を生かした開発でないといけないと考えているわけである。いづれ瀬戸内海架橋も時間の問題で実現するであろうし、県都松山の人口も増えるだろうことを考えるとき、久万町を農林業、山岳レクリエーションの基地としなければならないということになる。それをふまえて町づくりの方向を考えないといけない。

まず農業の振興については、生産基盤の整備（ほ場整備、畑地かん水施設、農道の整備）にしっかり力を入れること。米が生産過剰になっているが、これがいつまで続くのだろうか。将来世界の食糧が不足するといわれているので、久万は耕地をしっかり確保しておく必要がある。そのためには生産基盤の整備、松山への生鮮食料の供給基地としての研究指導が必要であると思う。

林業についても価格が低迷しているなかで、また世界のきびしい経済情勢のなかにあるが50年先、100年先を見てじっくり取り組むことが必要である。資源は有限であり、いつまでも外材に頼れるものではない。国内生産のみでは、国内消費に追いつかないので、森林業界が必ず見直される時がくると思っている。息の長い産業であるだけにじっくり取り組む必要がある。さらに、木材加工を一次、二次とできるようにする企業の導入と育成も必要であろう。そのためには、森林組合は郡内で1つが望ましいと思う。これは是非行政の立場からも働きかけたい。

町民の所得が上ることによって商工業者もうるおう。やがて、久万町は高原レクリエーション基地としての役割を果たすようになるだろう。そして、それによって波及効果が上がるものと思う。現在久万町は休養の町をうたっているが、これを更に家族旅行村として、都市生活者が一日を楽しむことのできるようにしてゆきたい。そして、自然に触れてもらうようにしたい。また、入り込み客も増えると思うので、観光農業的な開発も考え、安定した所得を上げることのできる、働きがいのある町づくりをしてゆきたい。

住みよい町づくりについては、直瀬地区、二名地区の時間的距離を短縮するために、連絡道路を整備することが、将来の大きな課題である。道路網の整備に力を入れ、快適で安全な道路を確保したい。次に、水の問題がある。まず、既設上水道を更に充実することに力を入れなければならない。特に、久万地区は、公共施設も増えてくるし、入り込み客も増えることが見込まれるので、水不足が予想されるため、新しい水源確保が重大な課題となる。また、污水处理の徹底も重要課題だと思っている。

香り高い文化の町づくりについては、人づくり教育は重要である。最近連帯性がだんだん薄れてきたが、地域でみんなが助け合うような温かい人間関係をつくることに力を入れて、教育しなければならない。もちろん行政も含めてすべての機関が努力する必要がある。

日本人のよさを取りもどすような教育が必要である。そのためには、幼稚園、保育所、小、



中学校の教育が完備されたところできるようにしなければならない。

次代を背負う若い人づくりを真剣に考え、若者を国の宝としてもう一度見直してみる必要がある。町民館、公民館、集会所、創作館を生涯教育の拠点として、更に充実してゆきたいし、又、体力づくり、レクリエーションの場である社会体育館、武道館、グラウンド、あるいは、緑地公園などを建設し、充実していく必要もある。ゆとりのある生活をしながら身体を鍛えるよう、合せていい伝統を築いていくことができるよう配慮しなければならない。

**司会** 町長さんから町の将来像についてお話をいただきましたが、それぞれのお立場で、今までの歩みの上に立って、更に新しい町づくりの構想についてご意見をお願いしたい。

**小椋** 国道33号線ができたことによって久万町の変貌は著しかったが、三坂トンネルが貫通したらまた変わってくるだろう。これからどのくらいで出来るようになるのか。

**河野** 三坂トンネルは是非つくりたいという気持は十分あるが、かなりの時間がかかると思われる。

**上沖** 33号線の改修工事は昭和34、5年頃から始まり、全線の改修を終わっている。高知県へ至る難所は全部トンネルで解決したが、もう高知～松山間で改良が必要なのは三坂トンネル以外にはない。これは単に久万町や上浮穴の問題ではなく、愛媛、高知を含めての問題だと思う。

**河野** 久万町がベッドタウンとなって、松山への通勤者だけを増すことが久万町の発展になるとも限らない。



**関井森林組合専務**

**関井** 二名のトンネルも並行して考えてもらいたいですが、現在進捗中の国道改修によっては、橋詰から上の道路拡張をお願いしたい。橋詰から二名の間が二車線になれば、走行距離も短縮されると思う。

**河野** 二名は、宮成から上が拡張を急ぐのではなかろうか。

**渡部綱** 久万町では、下水道の整備も急がなければならないのではなかろうか。

**河野** 下水道を整備するということや、公園の整備のために都市計画の指定を受けたわけである。これが出来ない限り、河川の汚濁はなくなる。し尿でなくて、生活用の廃水だけで

河川は大分よごれている。都市計画の中でも、下水処理施設は最も大きな課題である。下水処理施設を作る場合は、入野から野尻までの工事が必要である。

**司会** 農林業の振興についてはいかがでしょうか。

**日野** 町長さんが述べられたことについては同感であるが、上浮穴の産業の中心は、やはり林業である。上浮穴は林産物資源の豊庫である。森林組合の合併についても同感である。林産物の二次加工はできないものだろうか。森林資源の活用が、上浮穴にとっては最重要課題ではないかと考える。

**関井** 今年トマト団地を設定したのが15町歩、そこからの収入が2億円といわれているが、

## V 町づくり座談会

森林は13,000町歩で2億円の収入しか上げられない。このあたりに問題がある。これは林業の町のイメージとはほど遠いように思われる。町長さんの言われた森林組合の合併についても、合併して何に重点を置くかということを考えないといけない。それをはっきりさせないうちはふんぎりにくいではなからうか。

久万林業は、上浮穴全体を包含したものだということになっているが、川下、小田の場合は久万と若干おもむきが違って、国有林に依存する度合いが高い。森林組合の経営は、久万以外が有利であるといえる。

次に加工の問題であるが、これは森林組合もやらないといけない問題だと思う。現在、技打ち材がたくさんあるが、これをそのまま放置して素材売りばかりをしていると、久万町は一般材の町だと評価される恐れがある。そういう意味で森林組合もやらないといけない。また、林家、行政が一体となって、久万産材の加工に対して真剣に取り組まないといけない。品質、加工、流通の統一を図る必要がある。ある程度量的に生産できるものでなければならないし、また、継続できるものでなければいけない。二次林構で3,000㎡~5,000㎡の加工ができるものを計画しつつある。これからの林業には大同団結した取り組みが必要であり、行政指導が望まれる。

**上沖** 林業収入の2億円というのは、木引きから把握したもので、実際の売り上げはもっと増えるのではなからうか。

**関井** 間伐材の占める割合は年々増えるだろうが、出来るだけ拾いあげたいと思っている。

**河野** 森林組合の合併については、久万町が指導的な役割を果たすことになろう。これからは、加工して販売することに力を入れないといけない。

久万町には、久万町独自の町づくりが必要だが、国の制度の中でどう地域性を生かすかも重要な問題である。そこで、現実の問題として木材関連企業の誘致も考えてみる必要がある。

**関井** これからの久万林業は、加工以外にないと思うが。

**小椋** 小規模の町村においても、それぞれの責任者がおり、難しいとは思いますが、将来の問題として郡内の町村合併も必要ではないか。

**篠崎** これから10年もしたら、合併が必要だという意識が芽生えてくるだろうが、今は何とかやれるからということであろう。商工会も将来は合併する必要があるだろう。

**河野** 農業、林業の法人化の動きがあるが、産業の発達に沿った方向だと思う。どうしても、入り込み客も増えてくることが予想されるので、これの受け入れを考える必要があると思う。

**篠崎** 住みよい久万町づくりに協力するためには、そこに住んでいる人々が一つの心になる必要がある。町の発展のためには、農林業が発達しないとイケない。レクリエーション基地として、将来、自然環境に恵まれた久万は脚光を浴びるだろう。

**河野** 四国八十八か所の順拝客は、宿泊場所に田舎を好むことが多い。県とタイアップしてふるさとバスの運行も考えている。

**渡部(綱)** 久万町は施設が不十分なために、人を寄せることが出来ない場合が多い。

**上沖** 古岩屋荘には、お客が多くて宿泊できないことがあるといわれるが、松山あたりから



渡部 綱 教育委員長

一泊ぐらいで出かけてくるお客に満足してもらえる方法を考える必要があるのではなからうか。

**渡部（綱）** 会合の時に利用して、あとから家族づれで来る人もあるし、静かな環境が好まれているようだ。

**河野** ふるさと村も入場者が割合多いので喜んでいる。

**上沖** 民宿も希望に応じて対処できるようにしてはどうだろう。町民所得を増すような施策を講じることは必要であり、地元の生産品を愛用してもらうようにしむけることも大事だと思う。

**小椋** 教育課程の改訂が行われているが、教育は社会とともに変わっていくもので、「学校は楽しく、明るく、ゆとりをもって」やっていくだけではいけない。塾なんか必要としないだけの学力をつける学校が必要なのである。「ゆとり」は、一生懸命に勉強して自信を持った時に生まれるものであり、努力によってこそ「ゆとり」が出来るものなのである。教師は父兄の信頼に応えることが必要だ。

地域主義ということがあるが、これは地域全体をよくするためのものである。地域主義という考えで先生も頑張ってもらいたい。

学校統合の問題は、ここ4、5年位のうちに考えないといけない問題ではなからうか。町民のコンセンサスと慎重な判断によって方向を決めないといけない。

**渡部（鬼）** 久万町の人口問題について考えてみたいと思うのだが、まず久万町の適正人口規模をどの程度とみるのか。それによって町づくりをどう進めるかが課題となる。今後、ますます交通条件が整備されるだろうが、それによってベッドタウン化するのみでよいのか、ということも考えないといけないと思う。久万町は、1万前後の人口が適当ではなからうかと思う。（ほとんどの者が同意）

**小椋** 後継者がいないのが問題であり、若い後継者を残す方法はないものだろうか。農家に嫁がないので困っている場合が多い。



司会 日野企画課長

**篠崎** 林業後継者が無くなってしまわないかと心配しているのだが。

**関井** 森林組合の労務班の平均年齢が高くなった。若い層を入れるためには、老後の保障が必要となる。農林年金等の本人持ち出し分が増えることになるので困る。

**河野** 持ち出し分は、山林所有者が負担するのが本当だと思うが。

**上沖** 合併後20年をふりかえって、立派な町づくりができたと思っている。将来の町づくりをめざして、関係者が一体となって、長期展望のもとに、取り組むことが必要である。

## V 町づくり座談会

**司会** 今日は、それぞれ責任のあるお立場の方にご参加いただき、これからの町づくりについて具体的なお話をいただきましたので、町づくりの指針にさせていただきたいと思います。それでは、最後に、町長さんごあいさつを。

**河野** お忙しい人ばかりにお集まりをいただきどうもありがとうございました。将来の町づくりについては、まだまだたくさんのお考えがあらうかと思いますが、次の機会にお聞かせいただきたいと思います。

町づくりの方向は、今日のお話に出ておりましたように、決して間違っていなかったと思っています。大事なことは、住民の方々が考えていることを引き出し、共に考えることであります。これからも、どういう姿で住民総参加の町づくりを進めていくのがよいかということを考えていきたいと思っています。

## 2. 久万町の将来の発展のために

久万町長 河野 修

合併20年誌の発刊に当り、今日までの先輩の町づくりの成果をふりかえり、現在から将来への町づくりの方向について考えてみました。戦後わが国は諸種の矛盾や、アンバランスを内包しながらも高度成長を遂げてきました。しかし、高度経済成長のひずみとして、人間疎外が社会の重大な問題となり、繁栄と退廃が交錯し、その結果、甘えとエゴと破壊によって、社会は狂乱現象をきたしています。昭和48年にはオイルショックと言われるかつてない打撃を受け、それ以降減速経済——安定成長への苦しい時代に突入しました。今日は対外貿易の不均衡に加えて円高、ドル安の現象に見舞われ、長引く不況は一層その深刻さを増しております。企業倒産が相つぎ、雇用の不安は日ごとに高まっているのが実状です。一方農山村においては、農畜産物の輸入緩和が強いられ、さらに米の生産過剰、消費量の減退など、好ましくない条件が山積しています。また国民の食糧自給率の向上にとって極めてきびしい水田再編政策が強力に推進されており、農家の生産意欲の喪失を招いています。林業面では、外材の無秩序な輸入と非木材品の利用拡大により、国内産材の価格の低迷という深刻な問題に直面しています。したがって林業に対する危機感、不安は一層高まってきております。このように農山村は重大な局面を迎えています。久万町もまた、その例外ではありません。

しかし、このような社会経済情勢の極めて厳しい中にもかかわらず、先輩の皆様のご努力により、町づくりの基礎がしっかり築かれていたおかげで、久万町が着実に前進しつつあることを、町民各位とともに喜びたいと思います。さらに町議会、各種団体はもとより、町民各位が一丸となって町づくりのためにご協力、ご支援くださいました結果であることを肝に銘じ、深甚なる謝意をここに表す次第であります。

私は、町長に就任させていただきましてから、青い空、きれいな空気、美しい緑に包まれた自然環境、温かい人々の心の触れ合い、明るい生活環境、豊かな生産、文化のかおり高い高原の町、ここを訪れる人々の思い出にのこるような、「ふるさと久万」をめざして、町づくりのために私なりに努力を重ねてまいりました。もちろん今日も、明日も、「ふるさと久万」の真の姿を求めて精魂を傾けていきたいと考えております。

### 人づくり

過去の経済の高度成長は、あまりにも物の欲望を煽りました。その結果、現代に生きる人間は、人間として最も大切なものを置き忘れてるように思えてなりません。今こそ置き忘れた大切なものを私たちはしっかりと取り返さねばならないのではないのでしょうか。つまり、働く喜び、感謝の心、連帯の中で育つ温かい心の触れ合いを求めていかなければならないと考えるのです。人づくりに力を入れることによって人間性の回復を今日めざさなければ、明日では遅すぎると思います。教育、文化施設の充実した環境の中で、小、中学校、幼稚園、保育所

## V 町づくり座談会

の子供たちは「町の宝」として健全に育てられなければなりません。また町民館、公民館、集会所、創作館等も、生涯教育のセンターとして充実し、真剣に地域課題に取り組む場、教養を高める学習の場として、その機能を存分に発揮できるよう配慮しなければならないでしょう。

社会体育館、武道館、町民グラウンド、運動公園、レクリエーション広場なども建設整備し、町民こそって心身の鍛練に励むことができるよう条件づけをしていくことも必要でしょう。さらに、ふるさとでの生活の中から生れた伝統行事、芸能、文化財等を積極的に伝承し保存していくための条件整備も忘れてはならないと考えます。

これらの諸政策を通して創造的意欲のある人間の育成、人間性の回復が可能になるでしょう。また新しい久万文化の創造への第一歩ともなるでしょう。私は「人づくりの町」をめざして、人間教育推進のために、可能なかぎりの努力をしたいと考えています。

### 豊かな生活

日本の農業は、国際競争が激化する中で、その体質が問われる重大な局面を迎えています。私たちは、このことを正しく認識し、それに対する心構えを今こそ持たねばなりません。農業は、昔から一人で出来る産業ではなく、水を分かち合い、労力を相互に交換し合い、災害や困難を相互扶助で乗りきらねば成り立たない共同の産業です。農業の近代化、機械化は、農民に連帯を忘れさせたのではないのでしょうか。そのことを今一度思い起こす必要があるでしょう。

生産組織の強化、共同出荷、協業化、機械の共同利用（マシーネンリング）、流通の一元化などを進め、共存共栄の体制づくりをする必要があると考えます。さらに今日までの個人の複合経営から、新しい方法として、地域の中でお互いが複合経営をし合うような方法も考えてみたいものだと思います。地域の農業をどう進めるか。この課題解決の一方法として地域の限られた耕地を最高度に利活用するために、「地域複合経営」の形をとる農地の単年度交換利用が十分考えられます。新しい時代に対応する生活基盤の整備（圃場整備、灌水施設、農道、共同ハウスなどの設備）、里山利用の再検討、農産物の加工、流通改善等、新農業構造改善事業にそって推進しなければならない課題が山積しています。

高原の自然条件を生かし、生鮮食糧品の供給基地としての役割を果たすために、高能率経営に集団で取り組みながら、農業技術の研究を一層深め後継者の育成問題を解決していくなど、地域農業の在り方を探求してゆかなければなりません。

森林は木材を供給するばかりでなく、産業の発展にとって必要な水資源の確保、種々の災害の防止、国民の保健休養、動植物の保護等に役立つ公益的価値の高い重要な資源です。

林業はもともと50年100年を見通した長期経営のものであり、今日の価格の低迷に一喜一憂することなくじっくりと取り組む心構えが必要です。森林資源は有限であり、国内産のみでは国内需要を満たすことは不可能です。したがって、森林資源が必ず見直される時代がくることを信じておこたることなく、目的にあった育種、育林につとめていきたいものだと思います。

久万林業の最大の課題は、なんとといっても加工流通の問題でしょう。ここしばらく、出荷さ

れる素材には優劣混交が予想されます。この間の対応が非常に大事であり、それだけに製品販売が望ましいと言えます。木材関連工業の育成（導入）に力を注ぎ、さらに、久万林業にない手としての役割を果たしている森林組合に対し指導、援助を行い、できれば郡内の町村の森林組合の合併も推進致したいと考えています。

観光開発については、県都松山市の近効地として条件も整っており、明るい見通しを持っています。さらに、今尾橋架橋後は、必ず四国山脈の時代が来ることが予測できます。自然観光資源を活用した山岳レクリエーション地域として、都市生活者に明日への活力を生む場を提供し自然の中で安らぎと憩いの一時を過ごすことができるよう開発していきたいと思っています。すでに、このような性格と役割を十分に認識した上での計画が立案され、自然休養村事業により開発が進められています。さらに、家族旅行村事業計画（キャンプ場、果樹園、掘り取り園、テニスコート、ファミリー広場、フィールドアスレチック、民宿、遊歩道等の設置）に基づいて、旅行客の受け入れ体制づくりも進めております。観光客の増加によって、観光農業、観光果樹園、民宿、商店街等が潤えるようその波及効果を期待しているわけです。また、地域住民と都市生活者のコミュニケーション、人と自然との交流を図り、町民の憩いの場として十分活用できるよう積極的に開発を推進したいと考えています。

### 明るい生活環境

町は人々が住み、働き、学び、憩うための生活の場であります。したがって、住民がより安全に、より便利に、より快適に生活出来る居住環境づくりをめざさなければなりません。新町合併当時の重要課題であった直瀬、二名地区の時間的距離の短縮を図るための幹線道路の整備、町道、生活道の舗装、安全施設の整備等現在急いでいるところです。これらが完成すれば、学校問題、医療問題、地域の開発問題等、各種の課題が解決されるでしょう。また、行政の合理化等に取り組む素地も出来上がります。さらに、へき地感、疎外感が一掃され、文字通りの全町一体感が生れ、町づくりのムードもより一層盛り上がってくるものと思います。

次に、生活用水の確保について考えてみたいと思います。私たち人間生活に欠くことのできない水が、最近全国的に欠乏してきており、水飢饉が憂慮されています。わが町においても、生活の向上に伴い、水不足が深刻な問題になりつつあります。特に、各種都市施設の増加が予測される久万地区においては、新しい水源確保が今後の大きな課題となるでしょう。もちろん、既設水道による安定供給と、未設置地区の解消に取り組まねばならないことは論を待たないところです。一方、生活様式の変化に伴い、汚水の増加が河川の水質悪化の最大原因となっており、汚れた小川を再びよみがえらせるにはどうしても公共下水道の整備が必要となってきます。久万地区の都市計画整備目標にそって、段階的に地区の受益者負担等のご協力をいただきながら設置致したいと考えています。

次に、健康をもたらす施設として、公園、緑地、児童遊園地等の整備を進めていきたいと思っています。これらの一層の充実を図るためには、どうしても、観光開発と有機的に連携を保ちな

## V 町づくり座談会

がら推し進めていかなければなりません。ふるさとに生れ、ふるさとで生涯を送る人、新たに住民となった人、この町を訪れる人の誰もがともに憩い、語り合い、睦み合うことのできる環境、真に生きがいと、潤いのある人間らしい生活を営むことのできる設備の充実をめざして、「人間のための」町づくりに力を注いでいきたいと考えています。

### 社会福祉

現代の複雑な社会状況の中では、ともすれば日々の生活に追われ、温かい人間性が喪失されがちになります。真の福祉は、物や金でもたらされるものではありません。温かい家族生活と助け合いを基盤として、隣近所の励まし合い、心と心の触れ合いの中で育っていくものなのです。すなわち、地域社会の連帯の中で真の幸福が生まれ育つのです。人間の最高のしあわせは、健康、生きがいのある生活、長生きの三つに集約されると思います。わが国が世界一の長寿国になったことは大変喜ばしいことであります。その反面において、年々増加の傾向にある老人に対する福祉の施策が今後の重要課題として浮かび上がってきました。健康管理体制の整備、医療施設（町立病院、リハビリテーション）の充実、老人ホーム（広域施設）の整備を進めるのはもちろんのこと、老人や身障者の方々の生きがいを保障するための施策も講じなければなりません。しかし、老人、身障者の方々が、家庭と社会で果している役割を自覚し、自らを高めようとする努力もまた大切なことであります。恵まれない人々を助け、励ますボランティア活動、隣人との触れ合いを深めるコミュニティ活動、あるいは、趣味を生かす創作活動やレクリエーションなどが、日常的に行われる奉仕と連帯に満ちた久万町、喜びも悲しみも共に分かち合えるような高福祉の久万町の建設をめざしてゆきたいと思えます。

### 町財政

久万町の将来の構想、長期計画が順調に進められるか否かのキーポイントが、財政的な裏付けにあると言うことは申すまでもありません。そこで、少し財政面について触れてみましょう。今日のような社会経済情勢の中では、まだ自主財源比率の低い町村自治体レベルでは、将来の歳入をどの程度正確に推定できるか大いに疑問の残るところです。

久万町は、合併以来、常に積極財政の展開を続けてきましたが、町有林特別会計からの繰り入れもあって、健全財政を維持することができました。しかし、合併以来の行政需要に対応して町有林を積極的に活用したために、現在は、蓄積もかなり減少しております。したがって、しばらくは、町有林に多くを期待することはできないと思われます。また、過疎地域特有の財政見通しのむずかしさもあります。加えて、町民税、タバコ消費税、電気ガス税等の増加も期待することはできません。したがって、国、県の財政措置に打開の途を求めざるをえないのが現状です。つまり、財政措置を講ずるためには、どうしても補助事業を多く取り入れたり、地方債にそれを求めたりしなければならないわけです。久万町は、類似町村と比較してみたとき公債比率が低いとは言え、このまま推移すると仮定すれば、公債比率を高めなければならない



なります。そうすると、財政硬直化の要因になりかねないという心配も生じてきます。財政硬直化の事態を招かないようにするためには、財政の効率的な運用と諸経費の節減に努力しなければなりません。

さらに、増大する住民の要求にいかに対応するか、その要求を実現するための町の財政支出をいかなる基準によって決定していくか等、大変重要な問題を多くかかえております。それだけに、今後住民の理解と協力を願わなければなりません。理解と協力の中で健全財政を堅持し積極的に町づくりを推進することが、私の政治的理想でもあるのです。以上のような理想のもとに、将来の久万町像を描いてみると、課題や問題点のあまりにも多いことに驚きを禁じ得ません。さらに、国道33号線三坂峠隧道、380号線真弓隧道、県道久万西条線クルス隧道の開通、木材工業団地づくり、病院建設、都市公園整備等、当面する重要課題も山積しています。これらの課題解決に一層努力しなければならないと決意を新たに致しているところです。

経済基盤が少しばかり弱くても、「人が住む町」としては、最高であると言われるような町づくりを希求しています。経済基盤の弱さを補うに足るすばらしい自然環境と、郷土を愛しはぐくんできた町民と、地域の連帯に支えられた豊かな人情が、久万町にはあふれています。この誇りを肝に銘じて、ふるさとをいつまでも守り、久万町の将来の発展のために、全力を傾注してゆきたいと思っています。

# 久万町合併20周年記念

## 町づくり論文。標語入選者

この論文、標語は、久万町が合併して20周年の記念すべき年を迎えるにあたり、20年の足あとをふりかえるとともに、更に将来の開け行く町づくりの参考にするために募集したものです。

### (町づくり論文入選者)

#### 優 秀 1点

久万町の産業振興への模索 (共同製作) 久万町大字久万町 医師 西本 忠治  
久万町大字下畑野川 公務員 浅井 一郎治

#### 優 良 2点

久万町の将来像への展望 久万町大字久万町 薬剤師 西本 静香  
久万町の将来 久万町大字直瀬 公務員 平岡 新太郎

#### 佳 作 6点

ふるさと久万を 久万町大字上畑野川 高校生 廣 沢 成美  
久万町の明日を夢みて 久万町大字入野 公務員 木 下 敬幸  
町づくりについて 久万町大字西明神 農 業 山 岡 正美  
自治意識と協調連帯のコミュニティ 久万町大字下畑野川 公務員 土 居 道弘  
コミュニティとしての久万町 久万町大字直瀬 団体職員 渡 辺 浩二  
成人教育と町づくり 久万町大字二名 公務員 西 岡 実義

### (町づくり標語入選者)

小学生の部 すくすく伸びる子 ぐんぐん育つ木久万の町 畑野川小学校 武 市 純  
中学生の部 みんなで育てた心の輪 久万中学校 隼 田 直美  
育てよう みんなで守ろうふるさとを 久万中学校 渡 部 美保  
育てよう 緑のふるさと 久万の町 久万中学校  
一般の部 人の和と緑で築こう久万の町 久万町大字久万町 森 岡 敏  
すすめよう 心のふれあう町づくり 久万町大字直瀬 渡 辺 浩二  
この手この目で20年未来に生かせ久万の町 久万町大字久万町 相 原 芳愛  
久万の里 のびる森林のびる町 久万町大字久万町 土 屋 ヨシエ

# 久万町の産業振興への模索

上浮穴郡久万町大字久万町

西本 忠治（医師、西本医院院長）

上浮穴郡久万町大字下畑野川

浅井一郎治（地方公務員、久万町役場勤務）

## 1. はじめに

昭和34年に、旧3か町村（久万町、川瀬村、父二峰村）、および、美川村楨谷が町村合併促進法によって合併し、新しい町「久万町」が誕生して20年目を迎える。

この20年間のわが国の歩みは、実に変遷の著しいものであった。

それを一点に集約すれば「日本経済のめざましい発展による影響」であったといえよう。その影響の代表的なものは、世界の歴史の中でも最たるものといわれる日本の人口の地すべりのな都市集中と、それに連鎖する農山漁村地域の過疎現象、産業間の著しい所得格差、公害等の生活環境問題、価値観の変化と多様化、人間疎外等々であった。

その功罪は別として、久万町も当然ながらその影響を直接的に受けて今日を迎えている訳である。

私達は、この記念すべき合併20周年を機会に、「あすの久万町の産業振興策」というテーマに焦点をしばり、前述の影響も念頭に置きながら、この20年間の歩みを振り返るとともに、将来への発展策のいくつかについて考察してみた。

## 2. このテーマをとりあげた理由

私達が、産業振興の必要性を強く感じ、その模索を試みるのには次のような理由がある。その第1点は、わが国は経済的に非常に豊かになったといわれており、事実、総量的、相対的にみれば豊かになったと思うが、久万町の場合はどうであろうかという疑問である。その答えの一つが第1表である。

第1表 1人当たり所得（分配所得）の比較

区分	年度	48	指数	49	指数	50	指数
全 国 計		936	100.0	1,110	100.0	1,175	100.0
県 計		736	78.6	877	79.0	963	82.0
愛媛県内市計		808	86.3	951	85.7	1,039	88.4
愛媛県内郡計		589	62.9	725	65.3	805	68.5
上 浮 穴 郡		564	60.3	660	59.5	719	61.2
久 万 町		594	63.5	731	65.9	751	63.9

単位 千円

資料

「統計からみた市町村のすがた」

「統計からみた愛媛県の地位」

全国平均所得 100に対して、久万町は各年とも60余りであり、かなりの所得格差が認められる。また、愛媛県内でも市部に対して郡部の所得は、相当低位にあることがうかがえるのである。

他方、地方公共団体である市町村の財政力を愛媛県下でみると、第2表のとおりである。これは、住民所得に正比例した結果をしめしており、郡部と比較した場合の市部の財政力の豊かさを物語っている。

第2表 財政力指数の推移

資料「統計からみた市町村のすがた」

年度 区分	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
県計	0.522	0.482	0.462	0.464	0.250	0.249	0.248	0.253	0.263	0.512
愛媛県 内市計	0.751	0.689	0.673	0.699	0.553	0.541	0.547	0.571	0.589	0.725
愛媛県 内郡計	0.265	0.239	0.219	0.209	0.188	0.190	0.186	0.187	0.195	0.240
久万町	0.293	0.272	0.232	0.209	0.207	0.204	0.201	0.206	0.223	0.232

これら二つの数値から、高度経済成長による産業間の所得格差が、2、3次産業を主体とする市部と1次産業を主体としている郡部に現われているとも換言できよう。

第2点は、久万町が過疎地域として、全国1,093市町村の中の一つに指定され、第3表のとおり人口の減少の激しい地域に属していることである。

第3表 久万町の人口の推移

資料「国勢調査報告」

久万町の人口は35

区分	総人口(人)	前回対比人口 増加数(人)	前回対比人口 増加率(%)	人口密度 (1km <sup>2</sup> あたり)
35年	14,291	△ 1,055	△ 6.9	86.6
40年	12,568	△ 1,723	△ 12.1	76.1
45年	10,482	△ 2,086	△ 16.6	63.5
50年	9,364	△ 1,118	△ 10.7	56.7

～50年の15年間に4,927人、34.5%が減少したのである。これを調査年次の対比でみると、45年は40年に比べて16.6%

減少している。同期の過疎市町村平均と比較してみると、愛媛県12.6%、四国13.3%、全国13.4%であり、過疎化の高いことを物語っている。50年は45年に比較して10.7%の減少にとどまっている。しかし、地域社会が高齢化への移行をみせていること、人口の流出余力そのものが失われていることを考え合わせると単純には喜べないものがある。

更に、この減少状況を年齢別にみると第4表のとおりで、年少人口の減少が非常に顕著で、生産年齢人口もかなりの減少をみせていることがわかる。その逆に高齢人口が急激なウェイトを占めており、高齢化社会の現出を如実にしめしているといえよう。

過疎化への対応策に即効薬はないが、働きがいのある町づくりを着実に進めることが肝要であり、それは、産業振興の模索の中で求められるのではないかという期待を持ったためである。

第3点は、わが国が直面している、そして、久万町が直面しているともいえる減速経済下の今後の産業に、特に「解体」されたと極論すら出る農林業の将来に何んらかの光明を求めずに

第4表 久万町の年齢別人口の推移

資料「国勢調査報告」

区 分	合 計	年少人口 0～14歳	生 産 年 齢 人 口				老齡人口 65歳以上	
			計	青 少 年 人 口 15～24歳	青 壮 年 人 口 25～39歳	中年人口 40～64歳		
35 年	実 数 (人)	14,291	5,101	8,183	1,936	3,173	3,074	1,007
	構 成 比 (%)	100.0	35.7	57.3	13.6	22.2	21.5	7.0
50 年	実 数 (人)	9,364	1,963	6,059	1,114	1,574	3,371	1,342
	構 成 比 (%)	100.0	21.0	64.7	11.9	16.8	36.0	14.3
35年を100とした50年の指数		65.5	38.5	74.0	57.5	49.6	109.7	133.3

は済まされなかったからである。

勿論、私達は、それを解明するには余りにも能力不足であり、遠く及ばないけれども、溺れる者は、わらをもつかむの心境で、この問題に触れてみようと思った訳である。

3. 農業に関して

第5表 久万町作物別農業粗生産額 (51年)

作 物 区 分	粗生産額	構 成 比
耕 種	米 <small>百万円</small> 708	38.5 %
	雑穀・豆類	12 0.7
	い も 類	23 1.8
	野 菜	583 31.7
	果 実	52 2.8
	花 き	23 1.3
	工 芸 作 物	200 10.9
	種 苗 ・ 苗 木	30 1.6
養 蚕	99 5.4	
畜 産	肉 用 牛	60 3.3
	豚	33 1.8
	に わ と り	10 0.5
加工農産物	6 0.3	
合 計	1,839	100.0

久万町の作物別農業粗生産額をしめしたのが第5表である。

日本の過疎地域での代表的な農林産物のパターンは、木材、プラス、米であるといわれている。

当地もその範ちゅうにあり、粗生産額の中で米の占める割合は最も高い。次いで野菜が多いが、当地の冷涼性を活かしたトマト、大根の生産が、近年順調な伸びをみせているのがその主な理由である。工芸作物は、その殆んどがたばこであり、養蚕、肉用牛、果実（栗が主体）も伸びをみせている。

これらの作物は、将来とも久万町の重要な農産物であることは確かであろう。

ここで、注目したいことが二つある。

その一つは、ユリ、スズランなどの花き生産が芽を出していることであり、関係者の今後の努力いかんによっては成長が見込まれる点である。

二つめは、果実生産が徐々に伸びてきている点

資料「統計からみた市町村のすがた」

である。この点に関して、今年8月に発表した「久万町総合開発計画関連調査報告書」の中でも指摘があり、久万町の農林業の重要な柱として、クリ、ナシ、リンゴ、ブドウなどの果樹生産を積極的に進めるよう提言があった。

さて、久万町の農業の将来をより良くしていくためにはどのような問題を克服せねばならないのか、私達なりに考え、その一部を提起してみたい。

#### (1) 転機にたつ日本農業への対応

稲作の生産調整は水田を荒廃させただけでなく、農家の心も荒廃させたといわれる。それとともに、果実・牛肉などの外国農産物の輸入によってわが国の農業は大打撃を受けている。

本来、農林水産業（1次産業部門）は、2次、3次産業部門に比較して劣勢産業であるというのが、おおかたの共通した今日的認識である。—その根拠は、1次産業部門のもつ特性（例えば人間の力ではどうにもならない自然の営み等の要因）に求められるが— ともかくそこに、保護政策の正当性が存在している訳である。

私達は、その点を十分に肯定しながらも、現実の問題として、日本の農林業は、将来、更にきびしい状況下に置かれるのではないかと危惧している。

その代表的なものは、農業に対する国の保護政策が転換を余儀なくされるのではないかとということである。その一つとして、日本の農林産物は、今後更にきびしい本格的な国際競争下にさらされること等が予想されるからである。

元来、自由競争は資本主義経済の基本原理であり、驚くに値しないかもしれないが、「農は国の基なり」とする農本主義の立場、あるいは、憲法の平等理念から導き出されたナショナルミニマム（国民的最低標準）理論の立場から考えれば、今後の農業は至酷な局面に遭遇することになると思われるのである。

久万町の農業も、勿論その例外ではない。

このような事態に対する農家の心構えや覚悟をしっかりと確立していくことが必要と思われる。

#### (2) 強い体質の農業をめざして

久万町の農業の労働生産性は低位にあり、また、前項の対応策の面から考えても、根本的な体質改善を引きつづき図っていかなければならない。

ただ、その方向として、現在までの単作経営化、大型機械化に対する日本農政の失敗、ないしは、誤りを指摘する意見（飯沼二郎著「日本農業の再発見」等）がかなりあり、今後の路線については、十分な見直しが必要であろう。

さて、農業の体質改善については、久万町農業の新しい見直しの上になって積極的に進めるべきであり、その一つとしての生産基盤の整備は、全国的にみても高水準にあるが、更に手を緩めることなく推進していかなければならないであろう。

経営近代化施設の整備については、ライスセンター、野菜冷蔵所など、久万農協の積極的

なとり組みで完成をみているが、附加価値を高めていく農産物の加工施設が貧弱なように思われてならない。

前述の大根についても、その一部を漬物として加工すれば、生大根の消費市場への出荷調整や農協への集荷機能の強化を更に果していくことになると思われ、産地化の促進を図ることになると考える。

また、栗についても、量産体制を確立するとともに、加工施設の建設を進め、安定した所得確保に努めなければならないと思う。

いずれにしても、農産物の流通部門、加工部門の開拓、及び、定着は、久万町の農業にとって非常に重要な課題であり、それは、農業の根幹的な体質をより良いものに変え得るエネルギーを有しているといっても過言ではあるまい。

### (3) 観光農業への活路

観光農業の分野は、当町にとって全く新しい分野であり、農家自体も少数例を除いて、全てが未知、未開拓の状況にある。全町的な組織と体制の確立が急がれる点である。しかも、自然休養村事業の完成年度が今年であり、関係機関の早急な対策が望まれるとともに、志向農家への指導と協力の要請が必要であろう。

私見ではあるが、久万町の観光農業は、将来とも農業に重点が置かれると予想されるので、直接的な窓口は農協が適当と思う。

さて、久万町の観光農業の中味の問題だが、当町で実現できそうな例を、全国の先進地から引用し列举してみると、(1)リンゴ、ナシ、ブドウのもぎとり園 (2)クリ拾い (3)イチゴ狩り (4)レクリエーション芋掘り (5)洋ラン、切花、鉢植え等の観光花園 (6)レジャー用貸農園 (7)ワラビ等の山菜とキノコ狩り (8)養魚中心のレジャーセンター (9)淡水魚の溪流釣り、堀釣り (10)観光牧場 (11)観光林業等である。また種類の異なるものとしては、農家の行う民宿、レジャー施設も列举できよう。(参考図書 藤井信雄編著「観光農業への招待」)

いずれにしても、久万町の農林業の第3の柱として、観光農業を確立していくため、行政、住民一体の全町的なとり組みが待たれるところである。

## 4. 林業に関して

まず、久万町的林業の特徴と歩みを簡潔に掲げてみよう。(1)林業地としての成立は、その大半が昭和20年代に始まったため、その歴史は非常に浅い。(2)立地条件は、杉、檜、地域によっては松が適し、久万町の86.7%、14,320haが山林である。(3)このうち、私有林が85.0%、12,113haを占め、在町者がその殆んどを所有している。また、約90%が杉、檜等の人工林で、全国的にみても植栽率は高水準である。(4)立木の年数は、30年生以下が90.2%を占め、幼齢木が圧倒的に多い。(5)所有形態は、5ha未満が74.4%を占め、林家の92%が農業をも営み、複合零細経営者が圧倒的に多い。(6)本格的な主産地づくりは、昭和38年、町と愛媛大学農学部が実施した久万町林業構造改善総合調査を受けて開始され、久万林業では、杉、檜の一般的建築材

を中心目標として「品質の揃った良質の木材を大量に生産する」ことで、生産方向が定められた。(7)実践過程では、町内に二つの産地原木市場が設置されて素材流通組織が整ったほか、前記の目標を達成するための育林技術体系が確立され、町村、森林組合、民間指導者の普及指導が積極的に進められてきた。また、加工の分野では、磨き丸太、良質の柱材等が徐々に量産化されてきたほか、椅子などの木工品製造に手がつけられた。なお、森林組合の努力で、優良柱材の展示直売の機会が恒例的に設けられたこと、育林指導のため専門技術者が設置されたこと等も、最近の久万林業の進展をしめしているといえよう。(8)生産基盤等の整備については、林構、中核林業等、国・県の補助事業を導入して整備を進めている。

概略、以上のようなことであろうか。

そこで、私達は当町の林業についての課題を次に掲げてみることにした。

#### (1) 試験研究機関の設置について

「苗半作」という言葉がある。当町の林分の大半は、昭和20・30年代の苗木のひっ迫した時期に、品種を選ばず植栽したケースが非常に多く、それらの林分が現在の主要林分となっている。

優良林分の育成は、手入れの良否もあろうが、素質の良い苗木を導入することが、成功の鍵であるといわれている。

木材が永年作目であるだけに、久万林業の生産目標に適した優良品種を決定することは、多くの時間と経費を要することだが、当地方の重要課題の一つでもあるので、公立の試験研究機関（林業試験場）を当地に設置することはできないものであろうか。

地域経済主義を重点施策としている県行政の積極的なとり組みを願うものである。

しかしながら、それが不可能な場合は、久万町、もしくは、上浮穴郡として、将来、独自に考慮することも検討しなければならないと思うのである。

#### (2) 木材加工の振興

木材加工の振興を、いかに図っていくかということは、現在の久万林業の最大課題であろう。この点は、前記(6)の林業構造改善総合調査報告の中でも触れられており、また、久万林業を調査された数多くの専門家の一致した意見でもあろう。（例えば岩水豊編著「久万林業」等。）

全く同感であり、私達はその実現のために最大限の努力を払わねばならないが、ここで、心せねばならないことがいくつかある。

その一つは、久万林業が地域全体として主産地づくりに踏み出したのは、昭和40年代に入ってからであり、まだ10年程度しか経過していないということである。

従って、全体的にみれば間伐材を含む優良材の生産がようやく緒についたばかりであり、大規模な木材加工施設の建設のための、十分な根回しなり、準備が必要だと思われることである。特に、減速経済下の現今では、経営の見詰めが非常に大切であろう。

二つめは、経営主体の問題である。現在まで関係者の中で検討されてきたのは、木材関連



企業方式、地元資本による第三セクター方式などである。しかしながら、どの方式を採用するにしろ、余程の覚悟をしなければ実現はむつかしいと思うことである。

木材関連企業方式の場合は、それらの企業が果たして当地方に進出してってくれるかどうか、はなはだ疑問な点である。

地域経済主義による地場産業の理想的な育成の立場から考えるならば、地元資本による第三セクターが、経営主体になるのが望ましいと思う。しかし、そのためには、域内林家の相当額の出資と、木材集出荷の系統化、経営への全面的協力が前提となり、それなりの参加責任を果たす覚悟が最も肝要と思われる。

この点に関して私見を述べるならば、経営主体は森林組合が最適であると思うことである。その理由は、第1に、森林組合が林家の協同体であるという自明の理のほかに、当町の場合は、製材部門を長年手がけてきており、加工・流通・販売について相当の経験を積み、販売市場等の実績も有していること。第二に、施設整備は財政的・経営的にみて積み上げ方式が妥当と思うが、第三セクター方式による新規事業と異なり、森林組合の場合は、それが容易であること。第三には主産地としての生産・流通・加工・販売の一貫体制が得られやすいこと等があげられる。勿論、森林組合が経営主体になる場合も、前述の参加責任が、この事業の前提になるのは当然であろう。

三つめは、民間での木工品の製造販売の拡大が大切であるということである。

木工品の主力となるものは、一般建築材であるが、久万材を活かすためには、あらゆる部門を開拓すべきだと思う。

この点に関して、昨年度、過疎問題調査会が、久万町を対象にして行った過疎地域における特産品の開発、および、育成に関する調査研究の中で、次のような指摘がある。

木工品に関する今後の方向として「久万町は、農林業という第1次産業の成長に対して木材加工や農産物加工という製造等につながる産業の成長が遅れている。自力でこの未知の分野を切り開いていくには、地域の中に木材加工以外でも、製造加工の面での先例が少なすぎるように見受けられる。従って木工品製造とともに、製材加工、農産品加工の芽を育てていくことが必要である。このためにも、木工品製造を出来る限り息長く発展させていくことを望みたい」としている。

この指摘は、全国的水準からみた客観的な結論であり、われわれに大きな示唆を与えてくれるものである。

木工品製造の芽を育てる方法には種々あろうが、例えば、上浮穴高等学校の林業科での実践教育の場を通しての試作研究、久万町の商工業者の中での実戦向きの開発（後述）等、関係者の積極的な営みが強く要請されているといっても過言ではないであろう。

## 5. 商工業に関して

久万町の商工業の現状について簡潔に整理を加えると、(1)久万町商工業が商圏区域としている久万町などの人口が、昭和30年代後半から著しく減少し、特に若年人口の減少は地すべりの

であり、また、商工業立地の減少、国道改良による購買力の流出など「地域社会の規模の縮小」が徐々に進行している。(2)このため、町内の商工業の環境は次第に悪化してきている。(3)そのうえ、商工業の経営規模は零細性が強い現状である。昭和50年に愛媛県が実施した「久万町商店診断」では、年間売上高1,000万円未満約44%、店舗面積50㎡未満約50%、従業者は家族のみ2人までが38%、兼業15%と報告している。(4)このような現状を打破し、商工業を振興させていくためには、業界内部における経営改善の努力が重要であるほか、土地利用計画、商店街の再編成、交通体系の整備等を図って、商工業立地を改善していく「地域開発計画事業」が根本的な課題であると指摘している。(42年発表「久万町商工業の現実と将来」、50年発表「久万町商店街診断報告書」、53年発表「久万町総合開発計画関連調査報告書」)

これらの調査によって、久万町商工業の問題点は数多く提起されているが、それらの問題を念頭に置きながら、私達は次の事項を提案したい。

#### (1) 商工業の中に新規の木材加工を

久万町の商工業は、環境の変化に対する適応が十分でなく、比較的規模の小さい零細店が、現在の需要からみて過多に存在しているという指摘(前述の報告書)の対応策として、他面、久万林業の課題の一つである木材加工の振興を図るうえからも、久万町の中での木材加工を新殖、拡大していく方向はどうであろうか。

勿論、製材工場などが現に稼動している訳だが、それらの拡大充実を期待するとともに、最終製品の方向の異なる手作業を重点とする、例えば、久万名産のどんこ人形、机、椅子などの杉加工品等々の木材加工業の新殖である。久万町の中での新規開業への計画を是非立ててほしいと願うものである。

これら木工品の特産化は、決してなまやさしいことではないと思うが、久万町の林業、商工業の必然的な要請と受けとめて開拓すべきであると考える。

#### (2) 久万町中心地域の開発

久万町中心部の地域開発は、都市計画事業を主力とし、県単事業等をつけ加えて抜本的に進めなければ、他に適切な方法はないと考える。

既に、営生地区に都市公園(運動施設主体)の建設が確定しており、これによって久万町のスポーツ、レクリエーション需要は大幅に満たされるであろうし、また、郡的、県的な行事もある程度受け入れ可能となろう。そうなれば、商工業、観光面の振興は、著しい前進が期待できよう。

笛が滝公園の整備にも、将来、本格的にとり組まねばならないが、その際、私達は、スケート場の設置を提案したい。

その理由は、久万町がスキー場の適地ではなく、近くに本格的な美川スキー場があり、久万町の代表的なウィンタースポーツ施設としては、スケート場が適していると思うからである。更に、笛が滝地区は北向きのため、相対的に気温が低く、オープン施設を考慮する場合、適地であること等があげられよう。

なお、久万町の平均気温は、昭和6～45年の40年間の平均で、12月 3.2℃、1月 0.7℃、2月 1.3℃であり、冬の寒気がかなり活用できるため、建設方式によっては、経費は相当節減できよう。

ちなみに、東北地方では、学校の運動場を利用して水を張り、自然の寒気で凍結させてスケートを行い、暖かくなれば、また元の運動場として活用していると聞いたことがある。久万町の場合も、グラウンドにパイピングして若干の冷凍を試みれば、年間 100日くらいのスケートは十分実現できると思われる。これが第1点の提案である。

第2点としては、町内中心部に児童公園の建設を提案したい。子供の遊び場が主目的の公園だが、ショッピングの休憩基地も兼ねられるし、地域住民の軽スポーツ、散策の場所、ともなる。また、緑の配置計画などの機能が十分果たせると思うからである。

第3点として、現在、賛否両論のある都市計画街路の建設である。

この街路は、前記の児童公園と連結して考慮し、国道33号線からの車と人の誘導を図ることを目的として設置すればよいと思う。

現行基準では、全幅は12m以上とされており、中心線から、街路樹、車道、駐車帯、歩道の区分がなされている。終点に買物広場を、前記児童公園に隣接して建設すれば、全施設を機能的かつ有効に活用することができるであろう。

なお、この街路の駐車帯を補完するため、現在、補助対象とはなっていないが、駐車場を買物広場に接続して建設することも併せて検討しなければならない点であろう。

第4点として、顧客を誘引することのできる目玉施設の建設である。それには種々のものがあるが、その一つとして、商工業者の協業化によるショッピングセンターの建設があげられよう。

この点について、前記の久万町総合開発計画関連調査報告書では、「顧客誘引力の一つの核として、生鮮食料品部門をもつショッピングセンター方式」が提唱されており、前記第2点、第3点の施設整備に併せて関係者間での検討が必要であろう。

## 6. その他の産業振興策に関して

### (1) 副県都への役割

私達は、久万町が近い将来、県都松山市の部分的なサブセンター（副県都）の役割をもつ日が来ると信じている。

なぜなら、久万町は現在でも松山市から車で1時間の距離にあり、将来新しい次元で国道改良が行われることにでもなれば、時間的な距離は大幅に短縮されることが予想されること、県都松山市からそのような距離にある久万町は、夏の冷涼性、自然的環境、景観等に非常に優れていること等が上げられるからである。

その特性を活かすものとして考えられるのは、大会議場の設置である。

前述のような基礎条件は、中四国の中でも有数のものであろう。

県的、あるいは、全国的な大型会議の開催が可能な「白亜の殿堂」のような思いきった大会議場の設置についての検討を提起したい。

勿論、副県都としての役割を担うのが第一義であるから、県営施設が最も望ましいが、事情によっては、県と久万町の共同設置方式も考えられよう。

もし、実現されるならば、商工業のみでなく、観光農林業へもプラスになろう。また、地元の大型会議にも活用できよう。

## (2) 当町と特定都市との協同開発計画

私達が提起したいのは、現在、久万町が進めている自然休養村事業などに併せて、当町と特定都市との協同開発計画の構想である。

この計画を簡潔に言えば、当町と特定都市が協定を結び、当町（ないしは当地方）の自然環境を媒体として、都市側の「自然の確保」の利益と、当町側の「自然の提供」による所得増大や地場産業の振興等の利益を同時に図っていくというものである。

施設の設置、維持管理等、全ての費用は両市町が応分の負担をしなくてはならない。

この提案の根拠は、(1)久万町の自然休養村は、全国的にみて稀少価値を有する資源に乏しいこと、(2)首都圏、近畿圏のような人口集中都市がその背景にないこと、(3)どこの町村も同様だが、財政力に限界があること等である。このため来町者支持力があまり期待できないので、この弱点を補おうという訳である。

次に、その構想を若干述べてみよう。

まず第1に、どのような事業を協同開発するかということである。この点に関しては、当町、及び、相手都市の諸条件を十分に検討したうえで決めるべき事項であるが、本論では、参考として三例を掲げてみた。

- ① 青少年向きのヒュッテ、バンガロー、キャンプ場、トリム等の施設である。小中学生を対象にした施設にすれば、林間学校などで相当の利用があると思われる。
- ② いも、なすび、すいか等の菜園、カブト虫等の昆虫養殖園、わらび、ぜんまいなどの山菜園。これらを協同で作り、都市の市民に提供する。
- ③ 久万材を材料にした木工教室の開催。実際に、木材を使って作品を創る機会を、前記林間学校などで設けると、教育上の効果が得られるほか、久万材の有効な利用の開拓の一つにもなると考えられる。

これらの事業は、久万町の観光農業のマイナスにならないよう調整して行うことが必要であろう。

第2に、どの都市と協同するかということであるが、双務協定の性格から考えて本稿では論外のこととした。

また、この事業については、経済的、社会的側面からの評価のみでなく、人間相互の心の交流、つまりは、文化の向上を果たす機能のあることも重視せねばならないと考える。

なお、この提案に類した事業は既に先例がいくつかある。和歌山県伊都郡花園村（山村）

と大阪府守口市（都市）協同の山村振興モデル事業がその一例である。

## 7. おわりに

以上、私達は、あすの久万町の産業振興について、その一部の可能性を模索してきた訳だが、そのいずれについても、結局のところ、われわれ町民の意識なり、心構えなりが最後の決め手になると思われることである。

わが国の高度経済成長は、高く評価される実績を残した反面、そのひずみの一つとして日本人の心を味気ないものにしてしまったという見方もある。その正否は別として、われわれは、この機会に静かに過去をふり返るとともに、話し合い、聞き合い、譲り合う、真の民主主義の豊かな心を、地道に育て上げ、その心を久万町の隅々にまで広げていかなければならないと思うのである。

今、新しい潮流として流れ始めた地方分権、地域主義の理念も、帰するところ、人間の心の豊かさの中に求められるように思う。

われわれは、明るく久万町の未来をめざして、更に努めなければならない。